

# 旭丘・小竹地域における 保護者および地域説明会

平成28年10月10日(月)  
12日(水)

練馬区教育委員会事務局 教育施策課 教育施策担当係

# 1 旭丘・小竹地域内 3 校の現在の状況

## ( 1 ) 児童・生徒数、学級数の推移 ( 各年 )

カッコ内の数値は、学級数

年度	21	22	23	24	25	26	27	28
旭丘小学校	196(6)	196(6)	191(6)	166(6)	162(6)	144(6)	144(6)	143(6)
小竹小学校	275(11)	284(11)	259(9)	251(9)	252(10)	245(10)	258(10)	272(11)
旭丘中学校	178(6)	191(6)	199(6)	186(6)	180(6)	164(6)	164(6)	160(6)

平成21年度から28年度までの数値は、当該年度の5月1日現在の実数。

旭丘小学校と旭丘中学校の児童・生徒数は低い水準でほぼ横ばいで、依然として適正規模に近づく見通しが立たない。  
小竹小学校の児童数は増加傾向にある。

## ( 2 ) 住民基本台帳上の子どもの数 ( 平成28年 3 月31日現在 )

	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	計
旭丘 1	30	23	30	20	19	27	149
旭丘 2	15	9	14	12	7	11	68
小竹町 1	61	35	41	34	39	23	233
小竹町 2	41	23	35	35	35	27	196
計	147	90	120	101	100	88	646

旭丘地区は子どもの数は少なく、今後も単学級が続くことが予想される。  
年齢によってバラつきはあるものの、旭丘・小竹地域全体としての子どもの数は増加傾向にある。

# 1 旭丘・小竹地域内 3 校の現在の状況

## (3) 旭丘・小竹町地域の幼児（入学予定者）数

	前年 10月1日	入学者数	学区域外 入学者数	学区域内 入学者数	学区域内 入学率
28年度	89	90	11	79	88.9%
27年度	80	61	8	53	66.3%
26年度	72	46	7	39	54.2%

年度によってバラつきはあるものの、学区域内の入学者が少ない。

## (4) 校舎の状況

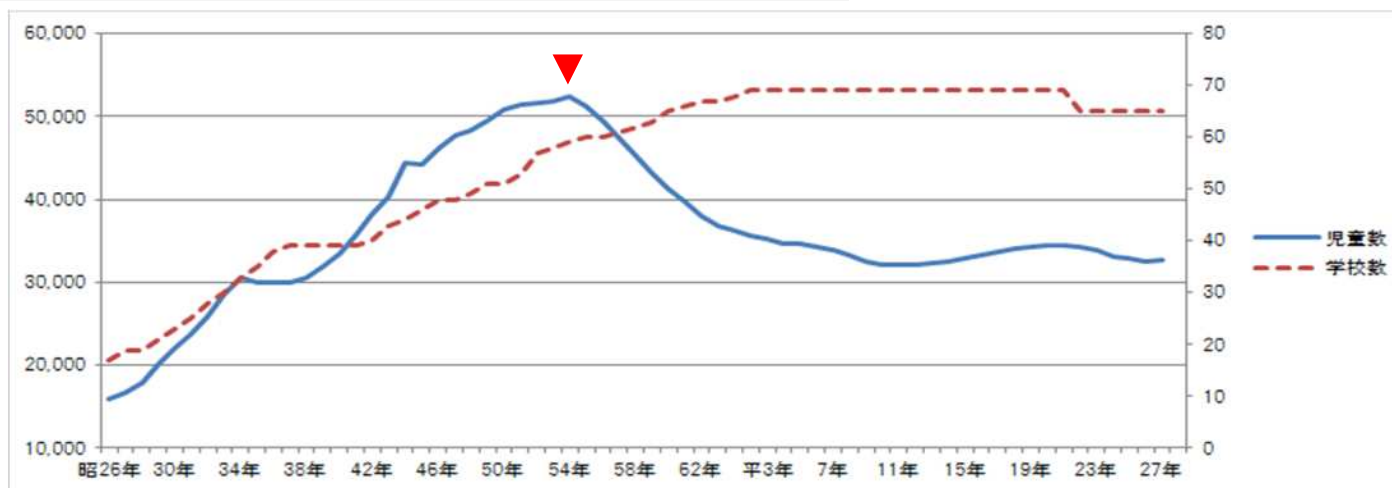
カッコ内の数値は、特別支援学級

	教室数		主な校舎 の建築年月	大規模 改修	面積 (m <sup>2</sup> )			
	普通	特別			校地	校舎	運動場	体育館
旭丘小学校	7(1)	27	昭和40年3月	平成22年度	15,902	5,573	8,597	773
			昭和45年1月					
			昭和48年3月					
小竹小学校	9	14	昭和34年3月	平成6年度	13,773	4,390	8,734	766
			昭和36年3月	昭和62年度				
旭丘中学校	8(2)	20	昭和38年3月	平成2年度	12,900	5,719	7,580	930
			昭和39年3月					

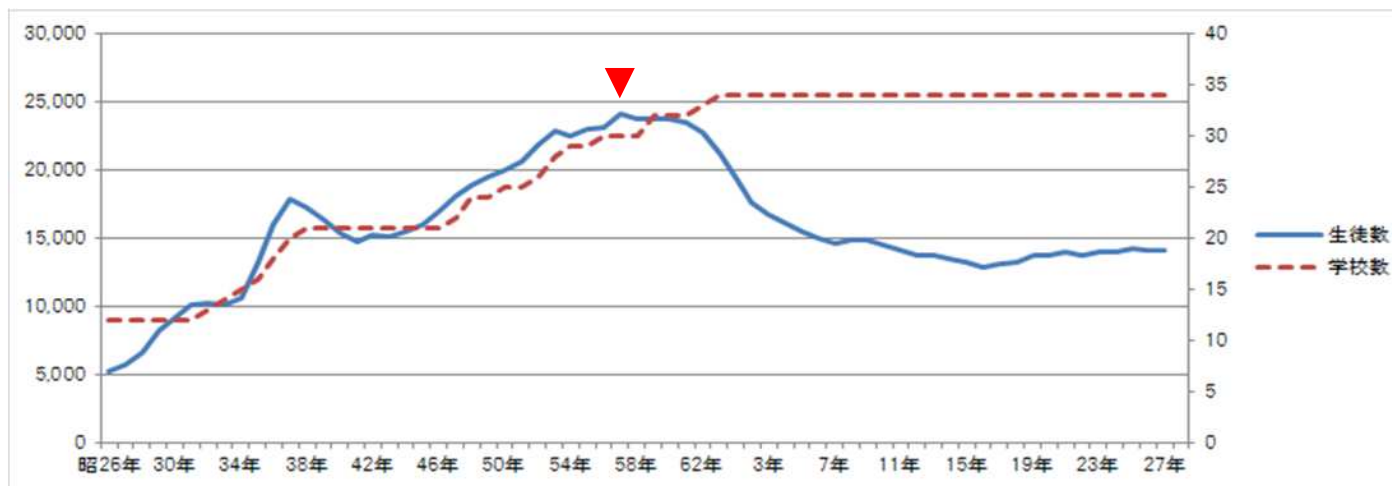
旭丘小学校は3棟あり、一番古い校舎は昭和40年建築で築50年が経過。  
小竹小学校は2棟あり、区内でも最も古い校舎のひとつ。  
旭丘中学校は2棟あり、いずれも築50年が経過。

## 2 区立学校全体の状況

### (1) 区立小学校の児童数、学級数の推移



### (2) 区立中学校の生徒数、学級数の推移

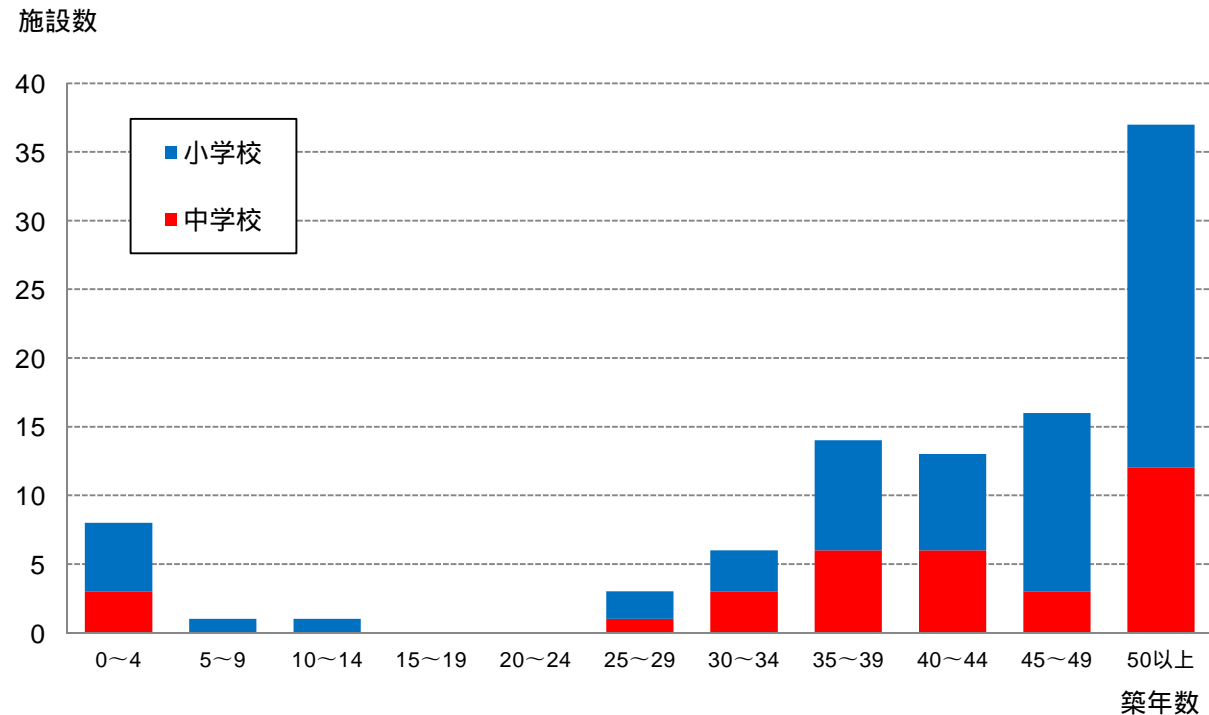


児童・生徒数のピークは、小学校が昭和54年、中学校が昭和57年でピーク時の約6割まで減少

## 2 区立学校全体の状況

### (3) 建築後経過年数別の状況

建築後経過年数別の施設数



区全体の学校施設は、築30年を経過しているものが約9割、築50年を経過しているものが約4割  
今後30年間の学校施設の改修・改築にかかる費用は、約3,833億円で、1年あたり約128億円



### 3 旭丘・小竹地域内 3 校の課題とこれまでの取組

#### ( 1 ) 児童・生徒数の現状と将来見込み

旭丘小学校は平成20年度以降、全学年単学級。  
旭丘中学校は平成17年度以降、6学級が継続。  
小竹小学校は平成21年度以降、11学級以下。  
東京都の将来推計によると小竹小学校は今後、適正規模に回復するものの、旭丘小学校と旭丘中学校は過小規模が継続していく見込み。

#### ( 2 ) 3校による小中一貫教育の取組（23年度から）

小学校間で交流事業や合同での移動教室を実施。  
旭丘中学校教員が旭丘小学校で児童向けの乗り入れ授業を実施。  
旭丘小学校と旭丘中学校では、特別支援学級の小中一貫教育の取組み。

#### ( 3 ) 小中一貫教育の調査研究（平成27年度～文科省調査研究事業）

大学連携による芸術的なプログラムの研究。  
児童生徒のつまずきを解消する学力向上プログラムの研究。  
地域コミュニティの拠点としての魅力ある学校づくりの研究。

#### ( 4 ) 校舎の老朽化

小竹小学校の建築年数は57年で、区立学校では最も古く、旭丘小学校・旭丘中学校の建築年数も50年を超え、今後順次改築が必要。  
旭丘・小竹地域の児童・生徒数、学級数の動向や区の財政負担を考慮した効果的・効率的な改築方法の検討が必要。

## 4 練馬区における区立学校の適正配置の取組

### 区立学校の適正規模

小学校は11学級以下を、中学校は10学級以下を過小規模校に指定。

平成17年4月「区立小中学校および区立幼稚園の適正配置基本方針」

小学校	中学校	
<u>旭丘小学校(6)</u> 光が丘第八小学校(7) 豊玉第二小学校(10) <u>小竹小学校(11)</u> 豊玉東小学校(11) 春日小学校(11)	光が丘第四中学校(4) <u>旭丘中学校(6)</u> 豊玉第二中学校(6) 豊溪中学校(6) 大泉学園桜中学校(7) 八坂中学校(8) 南が丘中学校(8)	豊玉中学校(9) 北町中学校(9) 光が丘第一中学校(9) 光が丘第二中学校(9) 光が丘第三中学校(9) 貫井中学校(10)

#### (1) 適正規模の必要性

行事や集団活動が活発に行われ、児童・生徒が様々な人との関わりの中で、豊かな人間性、社会性、創造性を身に着けるためには、一定程度の人数や学級数が必要。

#### (2) 過小規模校の主な課題

集団生活の良さが生かされにくく、学年や学校全体の活気が低下する傾向にある。特に、単学級ではクラス替えができないため、交友関係が固定化しやすく、多様なものの見方・考え方にふれる機会が少なくなる。

## 5 今後の対応方針（案）

### 対応方針案を検討していく上での方向性

子どもたちにとって、より良い教育環境を提供していくことを第一に考える。子どもたちの活躍の場を広げるなど、より良い学校生活が送れるよう、できるだけ早く対応をする必要がある。

小中一貫教育校である大泉桜学園での検証結果を反映し、地域の特性にあった魅力ある学校づくりを行っていく必要がある。

### 対応方針案

旭丘小学校・小竹小学校・旭丘中学校を廃止し、新たな小中一貫教育校を設置する。

新たな小中一貫校は旭丘小学校と旭丘中学校の跡地に整備する。新たな小中一貫校の通学区域は、旭丘小学校と小竹小学校の通学区域を合わせた区域とする。

小竹小学校の跡施設については、区の計画や地域のニーズ等を踏まえて検討を行う。

今後、保護者や地域の方々のご意見を伺って検討を深めていきます。



## 6 対応方針（案）の検討経緯

### 対応方針案を策定した主な理由

旭丘小学校の周辺校を交えた通学区域の変更も検討したが、その対応は困難であると判断。

旭丘小学校と旭丘中学校のみで、小中一貫教育校を設置した場合においても、過小規模は解消されない。

3校ともに校舎の改築時期が迫っている。

旭丘中学校の学区域は、旭丘小学校と小竹小学校の学区域と一致している。

小竹小学校の通学区域に在住する児童は、中学校から小中一貫教育校に入学することになる。

平成23年度から、3校により小中一貫教育の取組を進めている。

3年間にわたり、旭丘・小竹地域の過小規模校の対応について検討してきたが、旭丘地域の児童・生徒数の増加は将来的にも見込めないこと、校舎が老朽化していることから対応方針案を示すことが必要と判断

旭丘・小竹地域の現状と将来課題を共有した上で、児童・生徒にとって、より良い教育環境を提供するための方策を、学校や保護者の方々と検討していくことが必要

全体スケジュールは保護者や地域の方々のご意見を踏まえ、今後お示しします。なお、設計から工事完了まで少なくとも6～7年を要します。

## 7 新たな小中一貫教育校

### (1) 目指す新たな小中一貫教育校の姿

#### 大学連携による芸術的なプログラムの研究

学区内にある大学に協力をよびかけ、合唱・楽器演奏・演劇などで特色ある9年間の教育プログラムを作成。

#### 児童・生徒のつまずきを解消する学力向上プログラムの研究

外国語活動の授業で中学校の英語科教員が小学生に指導したり、算数・数学で学力向上のための9年間の学習プログラムを作成。

#### 地域コミュニティの拠点としての魅力ある学校づくりの研究

学校が、旭丘・小竹地域のコミュニティの拠点となるよう、住民参加型の行事や講座を充実。

これまでの3校による小中一貫教育の取組みや調査研究成果を一層充実させ、旭丘・小竹地域の特性を活かした魅力ある学校を実現

#### 【各校の研究の取組】

オリンピック・パラリンピック教育（旭丘小学校）

横断的・総合的な学習

算数科（小竹小学校）

問題解決的な学習

国語科（旭丘中学校）

探究的な学習

#### 【3校合同の研究の取組】

国際教育部会

算数・数学部会

探究的な学習の進め方部会

特別支援教育部会

芸術部会

学校行事部会

生活指導部会

## 7 新たな小中一貫教育校

### (2) 小中一貫教育以外の特色

#### 学ぶ環境の充実

子どもたちが学ぶ喜び、わかる喜びを実感できるように、ICT（情報通信技術）環境の整備や学校図書館の機能強化など学ぶ環境を充実。

#### 施設一体型の新校舎

小中学校の児童・生徒と教職員が日常的に交流し、より高い効果を上げることが出来る一体型の校舎を検討。また、旭丘・小竹地区周辺の地域コミュニティ施設などの区立施設との複合化を検討。

### (3) 小中一貫教育校の具体的な取組例

小学校5・6年生の一部教科担任制の実施〔図工・音楽・社会・理科〕

全学年の合同の教育活動〔1時間目と5時間目の開始が同じ〕

5年生から50分授業〔1～4年生：45分授業〕

小中学校教員の協力による個別補充学習の充実〔その日の学習は、その日のうちにわかるまで教える〕

英語によるコミュニケーション活動の重視〔小学校3年生から英語の音声に慣れ親しむなど〕

少人数指導の充実〔算数・数学、英語〕

体験活動・異年齢集団活動の重視〔全学年による運動会・学校行事（学芸会＋合唱祭）など〕

5年生から参加できる部活動

1・7年生が合同で入学式、6・9年生が合同で卒業式 など

## 7 新たな小中一貫教育校

### (4) 小中一貫教育校の保護者、児童生徒の評価例（大泉桜学園の検証結果）

#### 9年間を見通した教育課程による学習指導および生活指導の充実

学校が9年間を見通した指導と見守りに努めていると思う保護者 84%

4年生で1～4年生棟の校舎のリーダーとなった経験が役立っていると思う児童 80%

#### 小学校から中学校への円滑な移行による安定した学校生活

7～9年生と同じ校舎で学校生活を送ることはよい答えた5・6年生 81%

一部教科担任制が子供たちの成長に合っていると答えた保護者 89%

一部教科担任制がよい方法だと答えた児童 77%

50分授業が子供たちの成長に合っていると答えた保護者 71%

学校に楽しく通っていると答えた児童・生徒 93%

#### 幅広い異年齢集団による豊かな人間性・社会性の育成

小中合同運動会で上級生を目標にした3～6年生 82%

小中合同運動会で下級生の手本になろうと意識した7～9年生 81%

小中合同行事が子供たちの成長にとってよいと答えた保護者 77%

交流給食などが子供たちの人間性・社会性の育成につながると答えた保護者 91%

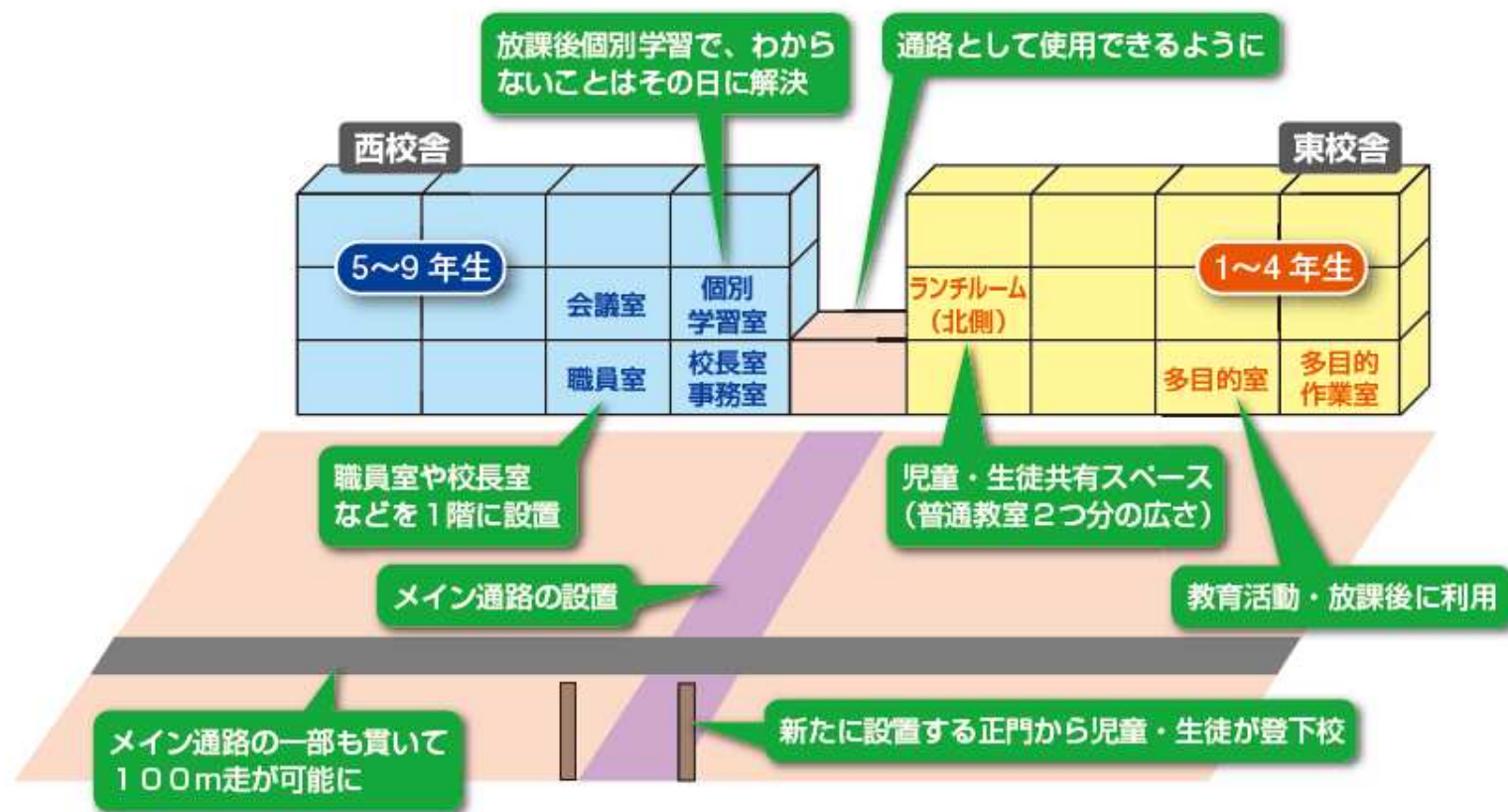
5・6年生が部活動に入ることによって活発になったと答えた7～9年生 57%

大泉桜学園では、保護者や児童・生徒から高い評価を得られています。



## 7 新たな小中一貫教育校

### (5) 校舎レイアウトのイメージ (大泉桜学園)



大泉桜学園での検証結果を踏まえ、既存の学校敷地を有効活用した、地域の特性に応じた、新たな小中一貫教育校の校舎建設を検討。



## 8 担当窓口および問い合わせ先

### 教育施策課

今後の対応方針案に関すること  
その他全般

### 学務課

通学区域に関すること（学事係）  
在校生の転校に関すること（学事係）  
特別支援学級に関すること（就学相談係）

### 教育指導課

小中一貫教育に関すること  
教育相談に関すること  
進路指導に関すること  
心のケアに関すること

問い合わせ先	電話番号	メールアドレス
教育施策課	5984-1034	ATGAKKO@city.nerima.tokyo.jp
学務課 学事係	5984-5659	GAKUMUKA@city.nerima.tokyo.jp
学務課 就学相談係	5984-5664	GAKUMUKA@city.nerima.tokyo.jp
教育指導課	5984-5759	SHIDOSHITSU@city.nerima.tokyo.jp